

茨城 全研ニュース #7

認知症の人と家族への援助をすすめる
第35回全国研究集会 in 茨城



公益社団法人 認知症の人と家族の会 茨城県支部
事務局 / 〒300-1292 茨城県牛久市中央3丁目15-1
(牛久市保健センター隣)
TEL/FAX 029-828-8089
E-mail Alz2010ibaraki@yahoo.co.jp

今年の全国研究集会は茨城県つくば市での開催です。

長梅雨の後、猛暑となった今年の夏、幾つか台風もやって来ましたが、皆様お変わりありませんでしょうか。今年の全国研究集会茨城県のつくば市で行われますが、市の北部に位置し、市名の由来ともなっている筑波山は、お盆休みを中心に、例年通り多くのハイカーや参拝者で賑わっていました。筑波山は峰が二つある事から、それぞれにイザナギノミコト（男体山）、イザナミノミコト（女体山）が祀られており、夫婦和合、縁結びの神として万葉の頃より信仰の対象とされています。

そろそろ秋の声も聞こえ始め、全研も近付いて参りました。準備委員会も頻繁に行われています。様々な媒体を通しての広報依頼や、展示ブース参加企業（団体）の選定、シンポジストの選出など最終段階に入りました。目下、スタッフやボランティアの配置や打ち合わせ方法など、スムーズな運営に向けて検討が進んでいます。

今回の全研のテーマは「繋ぐ」ですが、ご近所の繋がり、行政との繋がり、業種間の繋がりなどとても多岐にわたります。そこで今回は、近年認知症ケアでの重要性が注目されている言語聴覚士（ST）について、茨城県言語聴覚士会の草野義尊会長にお話しを伺いました。



Q. 認知症ケアと ST との繋がりは何の辺にあるのでしょうか？

本来は、失語症等のコミュニケーションのケアが専門で、認知症は対象外とされてきました。しかし、今では高次脳機能障害や口腔ケアも重要な役割として担っています。一般的な話として、高齢者のケアは栄養問題を避けて通れません。しかし食事というのは生活行動全体に関わっているのです、栄養士、看護師、POS（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）、介護士の連携が望ましい事は言うまでもありません。その中でも、口周りの構造機能については ST が最も専門性が高いと言えます。

Q. 認知症に限らずですが、在宅ケアも求められているのでしょうか？

在宅リハビリテーションにも随分出向いています。訪問リハは本人だけが相手ではありませんし、そのため難しい用語も使えませんので、ある程度経験が必要ではあります。言語聴覚士会としても、認知症の人に対する口腔ケアに特化した ST 研修などを進めております。

Q. 家族による在宅介護についてはどうお考えですか？

日本人の奥ゆかしさなのではと思うのですが、他人の手を借りたがらないとか、楽をすることに対する周囲の目などがかなり在宅介護を追い詰めてますね。ご本人が家に戻りたいのは当たり前です。しかし、家族が受け入れるにはそれなりの知識が必要です。認知症の特性をよく理解すれば、在宅介護も随分しやすくなるのですが…。

Q. 家族がもっと学べないといけませんね？

その辺の啓発はまだ足りていないですね。むしろこれからじゃないでしょうか。専門家対象には POS 総出で介護予防研修などを頻繁に行っていますが、もっと一般向けにやっていかないといけないでしょうね。求めがあれば幾らでも、例え手弁当でも(笑)協力したいと思います。



Q. 介護に関する様々な連携は、誰が音頭を取るべきなのでしょうか？

業態間、地域内、世代間等々、様々な連携があります。しかし、90歳を過ぎたら2~3人に1人が認知症ということで、長寿社会の日本ではもはや他人事ではありません。こうなったらもう国全体の問題ですから、地域行政も勿論ですが、やはり国策としてやってもらわなければならないのではないのでしょうか。

興味や必要性を感じている人達と認知症から距離を置きたい人達という目に見えない垣根を取り払うのは、やはり小中学校あたりからの教育だろうと思います。小さい頃から認知症やら障害を持った方と接していれば、そういうものだと思って、差別したり排除する事は無くなります。高校や大学においても、体験やボランティアなどを授業の一環としてできたらいいと思います。